

沖繩戰鬥經過概要
(航空部隊)

140

沖繩戰鬥經過概要(含戰沒者名簿)

D-2
262
/

永吉

(No. _____)

第6航空軍司令部(晴海/マダガスカル部隊)

昭和19年8月21日編成された教導航空軍司令部の支隊番付に基
 幹とし、2月21日編成された司令部は福岡に在りて九州防現に
 南支隊は海上方面の警備に任ず。20年3月21日未戦部隊
 の沖縄地海軍没と共、沖縄本島に討する攻勢が開始され上陸の名
 大と子7月1日大戦部隊はる色岡のうろ上陸せり。戦地は
 りる支隊海上部隊は直ちに戦地状態にあり。司令部は命令に
 りて戦地部隊のせん減と人となりに航空軍司令部、中
 南支隊に航空軍に協力し、この新設部隊を展開せり。沖縄
 戦況の進展と共に我々の利ある状況に子つるため、月中旬より司令部
 は至急増援部隊を編成し戦地部隊に増援し戦況改善を加え、未
 戦に至らしめるも我々の消耗甚大に戦力を回復しつる経力
 未戦増援に取付す。しかし、未戦勢力も次々補充せられ、
 とく悪化し、未戦勢力も次々補充せられ、有り我々の力
 り最後の戦までと盡し、大なる甲斐なく、22日玉砕せり。21
 日、15日、戦況に下る。海上最大の航空戦、特攻隊として、
 海上にのみ増援部隊に取付し、この部隊は所在し、この
 上、本軍関係者は次のとおりである。

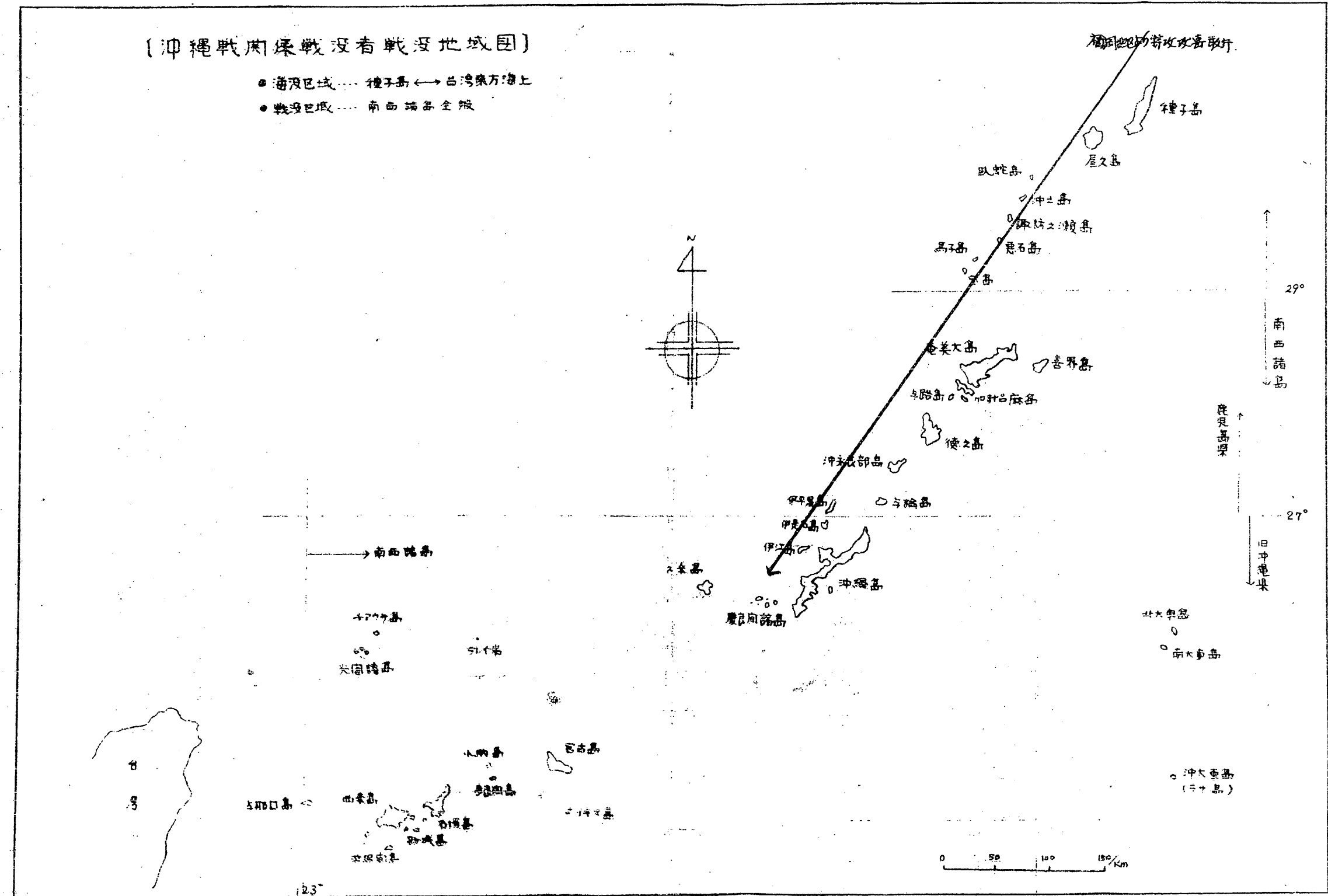
☆ 沖縄戦況調査専用有様用紙 ☆

(No. _____)

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44

【冲绳战役倭军战没地域图】

- 淹没区域…… 種子島 ← 台湾東方海上
- 戦没区域…… 南西諸島全般



第29野戦飛行場設置隊(球野ノ5385部隊)

昭和19年9月28日豊橋において編成され部隊は11月23日熊本市西鹿島島に上陸し、2月16日那覇港に上陸す。部隊は直ちノ2軍の隷下にあり直ちノ那覇に在りて一部は中飛行場に主力をもちて仲西臨時飛行場の設置に従事す。20年3月23日未だ幼部隊の地帯に俵子ノ空母下全力を盡して作業に従事す。4月1日上陸し各地において戦闘開始せしむるに部隊は敵陣営中の奥地に那覇を統合し司令部より那覇警備に任ず。4月2日以降各地における敵況は空海よりの強絶煙幕に覆撃する米軍状況的改善を遂げず。不知火下り反撃は逐次南下しつゝあり。連日連夜の強絶煙幕の地形変化し相次いで破壊せしむる陣地において此の防戦を減らす。4月12日に到り米軍の西海岸岸に南下せし部隊は那覇警備に退去し来るに米軍部隊は歩兵部隊とその警備を交替し百里に進退し陣地を占領す。米軍の進退を以て百里周辺にミタガシ状況にシテノミタガシ4月17日以降この同地において攻防戦奇襲とテノミタガシ。部隊は各所にあって決戦しつゝ5月27日軍の戦進に伴って残存兵力をもちて軍庫進接獲のため米軍の前線に米軍と乱闘す。軍の戦進完了に伴って部隊は消耗甚しく残存者僅少なるに統合し百里に撤退し大里に在る。大里地帯を占領せる部隊は米軍の南下阻止のため各所にあって死闘乱戦と下り米軍に討つる血戦大なるに強要しミタガシに在る。結果しつゝあり大里に我が消耗甚しく米軍の攻撃以上を失文り。5月27日部隊は残存兵力を統合し歩兵部隊と共に豊橋子に進退し豊橋

子一山城間を敵陣営右の決戦を企図す。6月15日砲より豊橋平野に山を没せる米軍に討つ各所にあってこの撤退せるも覆撃する米軍攻撃に戦果をあげつゝ米軍の消耗は僅少とす。部隊はここにあって最後の決戦をすべく企図し各隊は米軍に集結し命令に即応し敢行す。ここにあって決戦あり部隊行動は終る。米軍は各隊の新進しつゝ敵中に突撃し米軍に方面を脱出せるも各所にあって死闘し至る6月26日の間玉砕せるものゝ如し。沖縄上陸以来米軍は定了し敵兵とテワテ一撃を奪ひて戦闘を遂行しつゝ敵はこの部隊に層々に米軍攻撃の勢を以てありてある。

☆沖縄戦況調査専用百箇用紙☆

伊豫本島中頭郡
島原郡

